

【永光寺文書】 鹿島郡

五九二

永光寺四世峨山和尚再度住持之内無涯和尚下行注文

淨住寺住

布薩廻向人數之事

了悟 高橋 息女 田一段寄進狀在之

佛性 智鑑和尚親父 米十石出之、峨山和尚後御住東

司修造下行之

圓空 智鑑和尚母儀 米十石出之、同峨山和尚御住時

東司造營下行之

法眞 圓通院比丘尼 錢五貫文、鐘樓造立時下行之

宗寂 故守護入道殿 田地一段、寄進狀未出之、年貢

先收之

玄喜 故守護入道殿 田地一段、寄進狀未出之、先年

貢收之

永和二年九月廿九日記

(本文に淨住寺住とあるは、この原本が前に無涯智洪の董したる石川郡淨住寺の什物たりし意なるが如

し。又宗寂といへるは、建武三年七月廿八日の條に見えて、能登太守日園寺との書入あるものなり。) 十一月九日。左衛門尉宗成、珠洲郡本光寺に、馬繫村恒利名の田地を寄進す。

【本光寺文書】 珠洲郡

五九三

寄進 本光寺

合捌田 在所并恒利名之平八
名内貳田之分

右爲天下太平、庄家安善、諸願成就、奉寄進狀如件。

永和貳年十一月九日

左衛門尉宗成 在判

(恒利名が馬繫村に屬することは、貞和五年四月十一日の條に見えたり。)

天授三年 丁巳

紀元二〇三七

永和三年 京都

二月。武藏金澤稱名寺領能美郡輕海郷代官僧靈康、政所屋放火・郷内檢注のこと等を同寺に注

進す。

【稱名寺文書】 武藏

五九四

□□□□はして給べく候。

□□□□々事、爲御得意注進之。

一、政所屋放火事。

一、□□□燒失事。

一、郷内檢注事。

一、御□□□用途米燒失事。

一、富樫介・同額參州中不和事。

一、□□□神人郷内へ亂入事。

一、御年貢過上事、身進退難儀候之間事、能々可被遂結解候。

一、二□□十貫文同夫賃共及心候はんほどは、以愚身得分可進候。

一、依南都發向、守護方より被充候課役色々多候。不限當郷候。

一、彼□々皆々庵主御存知事に候之間、如此次第可被

申候敷。

永和三年二月廿□日

靈 康 在判

五月十五日。僧佛心、日課六萬遍念佛の碑を羽咋郡町居に建設す。

【町居名號碑】 羽咋郡

五九五

永和三 五月十五日 佛心

南無阿彌陀佛

日課六萬遍念佛

八月廿五日。莊主彦壽、鳳至郡寶泉寺に、櫛比莊内の田畠を寄進す。

【寶泉寺文書】 鳳至郡

五九六

寄付

能登國櫛比庄内田畠之事

合田壹段并畠壹所者在所舊市之河原有之也

右彼田畠者、永和三年大千賊之時、依致雨乞之祈禱忠節、彼下地お寄附賢海仁所也。仍爲後證之狀如件。

永和三年八月廿五日 庄主 彦壽 在判